

平成 26 年度 神戸市下水道事業主要施策

1 三宮南地区の浸水対策事業（事業費：4,335 百万円）

（主要施策の概要（6 ページ）「1. 安全で安心な暮らしの実現（1）浸水対策 ③三宮南地区」）

(1) 目的

三宮南地区（生田川から宇治川に至る国道 2 号の周辺地域（約 200ha））は地盤が低いために従前より高潮時には浸水被害が生じており、浸水対策を行う必要があった。そのような中、平成 16 年度には神戸港の満潮時刻に台風による高潮が重なり、三宮南地区は 4 度にわたり浸水被害が発生した。

これを受け建設局では、みなと総局が実施する高潮対策事業と連携しながら、雨水ポンプ場や雨水幹線の整備を行い、浸水による被害の解消を図る。

(2) 事業内容

三宮南地区の浸水対策を進めるため、同地区を小野浜、京橋、中突堤の 3 つの流域に分け、低地盤地区の雨水を強制的に排除するためのポンプ場や雨水幹線の整備を行う。

<全体事業>

○事業計画：小野浜ポンプ場・・・平成 21 年～平成 27 年

京橋ポンプ場・・・平成 17 年～平成 23 年

中突堤ポンプ場・・・平成 21 年～平成 27 年

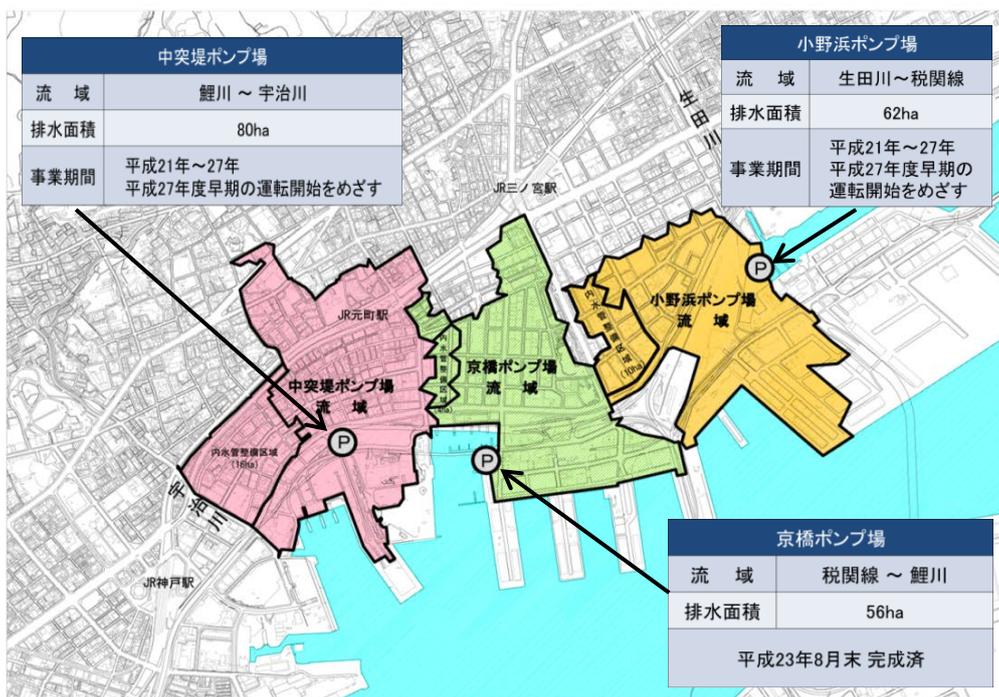
※小野浜・中突堤ポンプ場については、平成 27 年度早期の運転開始を予定

○総事業費：約 200 億円

(3) 事業効果

①整備区域における建物浸水による被害の軽減

②国道 2 号等の道路冠水による通行制限の緩和



2 西部処理場北系整備（事業費：801 百万円）

（主要施策の概要（6 ページ）「2. 施設の効果的な活用（1）西武下水処理場北系整備）

（1）目的

阪神淡路大震災の影響に加え、耐用年数を迎えて老朽化が進む西部処理場の改築更新を行い、市民生活に必要な下水処理機能を保持する。

（2）事業内容

平成 26 年で供用開始から 50 年が経過する水処理施設の改築を順次行う。
また、改築更新に合わせ、高度処理の導入を進める。

<全体事業>

○工期：平成 26 年～平成 31 年 供用開始：平成 32 年

※平成 26 年度は、処理場に流入した下水をくみ上げるポンプ施設の工事に着手

○処理能力（日最大）

整備前（1 系）・・・8 万 m³/日 整備後（北系）・・・5 万 m³/日

※整備前と整備後で生じる処理能力の差（3 万 m³/日）は、ネットワーク幹線を活用して垂水処理場で処理する。

○総事業費：約 260 億円

（3）事業効果

- ①計画的な改築更新により、施設を健全に維持する
- ②高度処理を導入し、公共用水域の水質環境保全に資する
- ③施設の耐震化・耐津波化を図り、被災時の安全度を高める



3 管きょ布設・改築更新事業（事業費：5,017 百万円）

（主要施策の概要（6 ページ）「2. 施設の効果的な活用（3）施設の計画的な改築更新」）

（1）目的

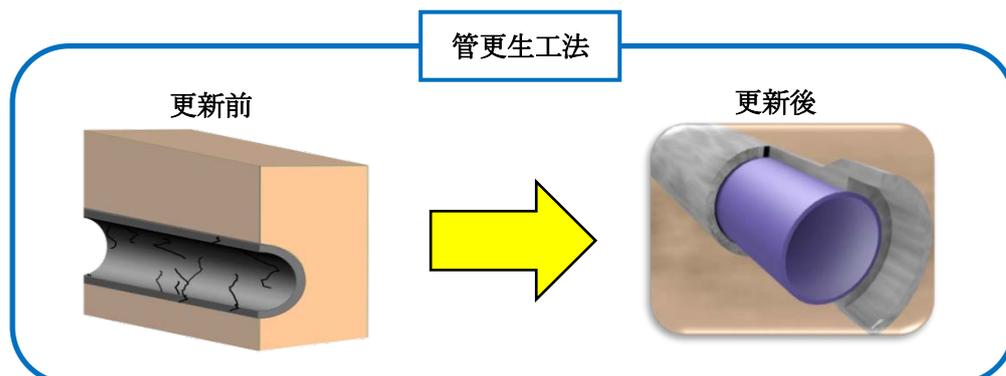
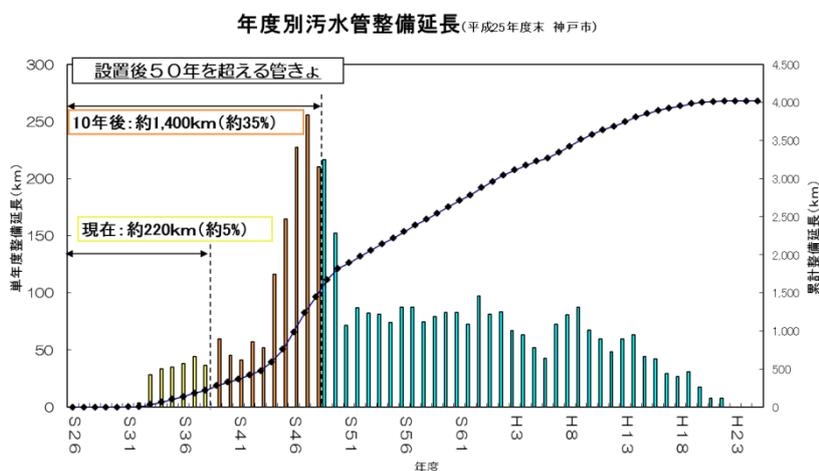
古くなった污水管をそのままにしておくと、污水管が壊れ、道路陥没・漏水などの事故につながる恐れがあるため、予防保全型の対策を実施することで計画的に改築更新を進め、併せて耐震化を図る。

（2）事業内容

- 事業計画：テレビカメラを使った調査により、污水管の痛み具合を把握し、污水管の古さや傷み具合、陥没が起こった時の社会的影響等を勘案して、優先的に改築更新事業に取り組むべき地区を定め、計画的に工事を進める。
平成 26 年度は、主に三宮駅・兵庫駅周辺の中心市街地において改築更新工事を行う予定。
- 事業手法：管の内側に新たな管を形成する管更生工法を採用する。
※道路を掘り返さず改築更新工事を行うため、市民生活への影響を抑制することが可能
- 工事延長：平成 26 年度は約 22 km の改築更新工事を実施する。

（3）事業効果

- ① 予防保全的な改築による事故の防止
- ② 計画的な改築事業によるライフサイクルコストの縮減
- ③ 管きょの耐震化を図り、被災時の安全度を高める



平成26年度下水道事業会計予算の概要

参考1

(1) 業務量

区 分 項 目	平成26年度 当初予算	平成25年度 当初予算	対前年度予算	
			差 引	伸び率(%)
年間汚水処理量(百万m ³)	184.2	188.2	▲ 4.0	▲ 2.1
1日平均汚水処理量(万m ³)	50.5	51.6	▲ 1.1	▲ 2.1
年間汚水中継量(百万m ³)	25.9	26.6	▲ 0.7	▲ 2.5
年間雨水排除量(百万m ³)	14.7	13.6	1.1	7.8

※伸び率はm³単位で計算

(2) 財政規模 (税込額)

(単位:億円)

区 分 項 目	平成26年度 当初予算	平成25年度 当初予算	対前年度予算	
			差 引	伸び率(%)
収益的支出	378.6 (243.0)	237.2	141.4 (5.8)	59.6 (2.4)
資本的支出	263.2 (256.6)	242.5	20.7 (14.1)	8.5 (5.8)
合 計	641.8 (499.6)	479.7	162.1 (19.9)	33.8 (4.1)

※()は会計制度等変更の影響を除く。※伸び率は千円単位で計算

(3) 経営収支 (税抜額)

(単位:億円)

区 分 項 目	平成26年度 当初予算	平成25年度 当初予算	対前年度予算		主な増減理由	
			差 引	伸び率(%)		
収 益	下水道使用料	192.5	194.8	▲2.3	▲ 1.2	有収水量の減 [注1]
	一般会計補助金	46.0	22.9	23.1	100.9	雨水事業の繰入方法変更による増
	長期前受金戻入	104.5	-	104.5	-	会計制度の変更により26年度より新たに計上
	その他収益	4.0	4.3	▲0.3	▲ 7.0	
	特別利益	1.0	2.0	▲1.0	▲ 50.0	一般会計補助金カット返還分1億円[注2]
合 計 (A)	348.0 (219.6)	224.0	124.0 (▲ 4.4)	55.4 (▲ 2.0)		
費 用	維持管理費	92.0	93.5	▲1.5	▲ 1.6	
	人件費	24.4	24.7	▲0.3	▲ 1.2	
	物件費	67.6	68.8	▲1.2	▲ 1.8	薬品費の減等
	資本費	257.9	136.1	121.8	89.5	
	減価償却費等	221.2	96.8	124.4	128.4	みなし償却制度の廃止等による増
	支払利息	36.7	39.3	▲2.6	▲ 6.5	平均利率の減
	特別損失	20.1	0.6	19.5	3,423.8	退職給付引当金等の計上等による増
合 計 (B)	370.0 (234.4)	230.2	139.8 (4.2)	60.7 (1.8)		
当年度損益(A)-(B)=(C)	▲ 22.0 (▲ 14.8)	▲ 6.2	▲15.8 (▲ 8.6)	-		
前年度末累積損益(D)	▲74.2	▲68.0	▲6.2	-		
当年度末累積損益(C)+(D)	642.1 (▲ 89.0)	▲74.2	716.3 (▲ 14.8)	-	26年度末累積損益には利益剰余金振替額738.3億円を含む	

※()は会計制度等変更の影響を除く。※伸び率は千円単位で計算

[注1] 「下水道使用料」には、民間社会福祉施設等の減免に対する一般会計補助金を含む

[注2] 平成26年度末の残高見込みは49億円となっている(平成8~10年度カット額153億円)

(4) 資本的収支 (税込額)

(単位:億円)

項 目	区 分	平成26年度 当初予算	平成25年度 当初予算	対前年度予算	
				差 引	伸び率(%)
収 入	企 業 債	76.6	81.9	▲5.3	▲6.5
	国 庫 支 出 金	43.8	48.2	▲4.4	▲9.2
	他 会 計 繰 入 金	4.7	26.0	▲21.3	▲82.0
		(27.0)		(1.0)	(3.8)
	財 産 収 入	0.2	0.3	▲0.1	▲27.3
	雑 収 入	13.8	4.2	9.6	229.6
	工 事 負 担 金	13.8	4.2	9.6	230.1
	そ の 他 収 入	0.0	0.0	—	—
合 計 (A)	139.1 (161.9)	160.6	▲21.5 (1.3)	▲13.4 (0.8)	
支 出	建 設 改 良 費	169.2	169.1	0.1	0.1
	処 理 場 建 設 費	11.1	3.0	8.1	270.4
	ポ ン プ 場 建 設 費	31.0	41.1	▲10.1	▲24.8
	汚 水 幹 枝 線 布 設 費	44.9	48.4	▲3.5	▲7.3
	雨 水 幹 枝 線 布 設 費	31.7	23.4	8.3	35.5
	流 域 下 水 道 事 業 費	2.5	2.0	0.5	27.3
	処 理 施 設 等 整 備 費	48.0	51.2	▲3.2	▲6.2
		(41.4)		(▲ 9.8)	(▲ 19.3)
	基 金 へ の 積 立	9.6	0.3	9.3	2,906.3
	企 業 債 等 償 還 金	84.1	72.8	11.3	15.6
	予 備 費	0.3	0.3	0.0	—
合 計 (B)	263.2 (256.6)	242.5	20.7 (14.1)	8.5 (5.8)	
収支差引 (A) - (B)	▲124.1 (▲ 94.7)	▲81.9	▲42.2 (▲ 12.8)	— —	

※()は会計制度等変更の影響を除く。※伸び率は千円単位で計算

(注) 資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 124.1億円は、当年度損益勘定
留保資金等で補てんするものとする。

(5) 主要施策の概要(税込額)

(単位:百万円)

事 項	予算額	収益的収支	資本的収支	説 明
1. 安全で安心な暮らしの実現				
(1) 浸水対策	5,598	-	5,598	
①三宮南地区	4,335	-	4,335	・三宮南地区浸水対策 (中突堤ポンプ場、小野浜ポンプ場の整備など)
②その他の地区等	1,263	-	1,263	・雨水整備重点地区の整備 (長田南部地区・西河原地区)
2. 施設の効果的な活用				
(1) 西部下水処理場 北系整備	801	-	801	・西部下水処理場北系水処理施設の築造工事
(2) 魚崎ポンプ場 改築更新	19	-	19	・魚崎ポンプ場の改築更新に係る検討業務
(3) 施設の計画的な 改築更新	8,409	-	8,409	
①管きよ	5,017		5,017	汚水・雨水管きよの改築更新
②処理場・ポンプ場	3,392		3,392	処理場・ポンプ場施設及び設備の改築更新
3. 良好な環境の創造				
(1) 下水道資源の 有効活用	85	59	26	
①こうべバイオガス事業	59	59	-	・こうべバイオガス事業の推進
②水リサイクル事業	26	-	26	・水リサイクル事業のための再生水管布設や 設備改修
4. 地域の活性化				
(1) 水インフラ支援による 国際展開	2	2	-	・地元企業等の海外展開の支援など

平成26年度神戸市下水道事業会計予定キャッシュ・フロー計算書

(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

(単位：千円)

1	業務活動によるキャッシュ・フロー	
	当年度純損失	△ 2,196,898
	減価償却費	22,019,000
	資産減耗費	100,000
	貸倒引当金	56,653
	退職給付引当金	1,843,092
	賞与引当金	213,000
	長期前受金戻入額	△ 10,450,000
	受取利息及び受取配当金	△ 13,000
	支払利息	3,671,054
	基金運用による収入	24,000
	固定資産除却損	597,617
	未収金増減額	312,935
	未払金増減額	△ 1,087,576
	たな卸資産の増減額	75
	消費税資本的収支調整額	769,816
	小計	15,859,768
	利息及び配当金の受取額	13,000
	利息の支払額	△ 3,671,054
	業務活動によるキャッシュ・フロー	12,201,714
2	投資活動によるキャッシュ・フロー	
	固定資産の取得	△ 16,951,875
	国庫補助金	4,375,086
	工事負担金	1,382,214
	雑収入	1,000
	その他固定負債	△ 938,000
	基金造成費	△ 962,000
	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 13,093,575
3	財務活動によるキャッシュ・フロー	
	建設改良費等の財源に充てる企業債収入	7,659,000
	建設改良費等の財源に充てた企業債償還	△ 8,409,637
	一般会計繰入金	468,689
	財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 281,948
	資金減少額	△ 1,173,809
	資金期首残高	28,759,808
	資金期末残高	27,585,999